

(5) コア拠点の適地の抽出

6箇所の基幹的広域防災拠点の適地の特性、配置が可能な機能構成イメージなどから、分散ネットワーク型の基幹的広域防災拠点におけるコア拠点の適地評価をすると、次のようになります。コア拠点は、全般に地盤の良好とされる洪積層の台地で行政機関が集積する三の丸地区か、航空輸送機能が活用できる県営名古屋空港周辺地区にあることが最も適当と考えられます。

■適地における基幹的広域防災拠点整備の方向性の評価

地区名	適地の評価	コア拠点としての評価
三の丸（名城公園周辺）地区	<ul style="list-style-type: none"> 立地の優位性、災害危険性、防災拠点機能性の評価が高い 海上輸送の交通利便性の評価が低い 総合得点は17点で第1位 	<ul style="list-style-type: none"> 国の出先機関など行政機関の集積を活かし、現地対策本部と緊密な連携によるヘッドクォーター機能を中心としたコア拠点の形成が期待できる 空港や港湾部のサブ拠点と連携することで、効果の高い拠点が形成される
県営名古屋空港周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> 立地優位性、災害危険性、防災拠点機能性の評価が高い 交通利便性は航空輸送の評価は高いが、海上輸送の評価は低い 総合得点は16点で第2位 	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋空港や航空自衛隊と連携し、救援物資の受入・配分調整や支援部隊の統合・調整を中心としたコア拠点の形成が期待できる。 名古屋市中心部の現地対策本部や港湾部の防災拠点と連携することで、効果の高い拠点が形成される
愛・地球博記念公園	<ul style="list-style-type: none"> 立地優位性、災害危険性の評価が高い 航空輸送や海上輸送による交通利便性、公共機関の集積の評価が低い 総合得点は14点で第3位 	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスクが比較的少なく立地の安全性は高いが、防災に関係する公共機関がなく、陸上交通以外の交通利便性が低いため、コア拠点としての優位性は低い 災害ボランティアの統合・調整機能を中心としたサブ拠点として期待できる
名古屋港周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> 立地優位性や防災拠点機能性の評価が高い 津波や液状化など災害危険性の評価が低い 交通利便性は海上輸送の評価は高いが、航空輸送の評価が低い 総合得点は13点で第4位 	<ul style="list-style-type: none"> 災害の危険性が高く、被災直後にヘッドクォーターとしての機能が果たせなくなる可能性が高いため、コア拠点としての優位性は低い 海上輸送による救援物資の受入・配分調整や支援部隊の統合・調整機能を中心としたサブ拠点として期待できる
岡崎中央総合公園	<ul style="list-style-type: none"> 災害危険性の評価は高い 海上・航空輸送の交通利便性、公共機関の集積の評価が低い 総合得点は12点で第5位 	<ul style="list-style-type: none"> 交通利便性がやや低く、防災に関係する公共機関もないため、コア拠点としての優位性は低い。 三河地域の中では最も評価が高いため、陸上交通と連携した三河地域のサブ拠点として期待できる
新城総合公園	<ul style="list-style-type: none"> 災害危険性、陸上輸送の交通利便性の評価は高い 立地優位性、海上・航空輸送の交通利便性、公共機関の集積の評価が低い 総合得点は11点で第5位 	<ul style="list-style-type: none"> 交通利便性が低く、防災に関係する公共機関もないため、コア拠点としての優位性は低い 新東名高速道路新城IC開設後は、東三河地域のサブ拠点として期待できる